



# おはようロスアンゼルス

倫理研究所U.S.A. 南カリフォルニア倫理の会

4月号会報

2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504

Fax: (310) 323-6737

2015年(平成27年) 4月1日(水)

NO. 163

## 文化講演会

### 成功裡に終わる

三月八日(日) 何ヶ月も準備して迎えた文化講演会は、百二十七名の参加者を迎え、無事終わることができた。

朝はいつものように朝の集いを行った。実践報告は藤間富士子さん。講話は藤崎正剛部長。九時半から軽いサンドイッチを頂き十一時に会場ホテルに集合。初めの式を取り記念写真を撮る。会場設営、文化部展示、図書、受付の準備をする。

午後一時三十分開始。司会は土佐美代子さん。子供短歌コンクール入賞者の表彰式があり、三人の実践報告が続いた。大久保あい子さんと池田武邦氏の「気と骨DVD紹介のあと藤崎正剛部長の講演。そのあと倫理研究所本部と南カリフォルニア倫理の会の活動紹介、図書紹介で全てのプログラムが終了した。

終わりの式を取ったあと、会場を綺麗に片付け、午後四時三十分、シーエンプレスに集合し、懇親会が始まる。

和気藹々の雰囲気の中、お互いに今日までの苦労をねぎらい、来年に向けて更なる普及の努力を誓って一日が終わった。

皆様、お疲れ様でした。これからもよろしく願っています。

## 文化講演会

### 「生きぬく力」

毎年一回、倫理U.S.A.が行う文化講演会は今年もホリデーイン・トーランスの大会議場にたくさんの人々が集まってくださり大盛況でした。

日本からおおいになつた倫理研究所教育企画部部长、藤崎正剛先生の講演「生きぬく力」は大スクリーンに動画を映しながらの解説を加えて説得力や迫力に富んでいて聴衆の心に響く内容でした。

私たちは今、世の中が便利になつた代わりに足を使つていない、、、頭もあまり考へたり、使わなくても事が足りたり、、、など説明された。例えば最近の赤ちゃんのおむつ機能がよくなつた代わりに3歳や4歳になつてもおむつから脱皮できずにいる子供が増えていること。つまり赤ちゃん側にとつては大、小の用足し後のおしめ不快感が少なくなつたために泣いて親におむつを替えてくださいという必要性がうすくなつて、おむつがとれない子供さんが多くなつたことです。

倫理とともに生きて六十一年の大久保あい子さんについてのお話も感銘を受けました。

「時間は人様のものではなく自分自身が使うもの」。「自分のことは自分で、お世話されるばかりの暮らしては、生きぬく力は衰えてしまう」、、、、ということ。大久保さんは四階の自分の部屋に行ったり来たりは階段の上り下りですが、足腰の鍛錬として受け止めているので一〇二歳の今でも達者でいられるという説明をされました。

藤崎先生は倫理U.S.A.会員三人の体験談にも言及しました。高校生、尾崎広之進さんは障害児で幼くして他界したやさしいお姉さんのおかげで「生きぬく力」を授かつたこと。伊澤潤子さんは遠い日本で暮らしている親とはしきなみ短歌を通してその「つながり」を再確認していること。前田グレースさんは「ご主人が突然「余命あと六ヶ月の癌」と宣告されてから、自分の銀行勤めも辞めて一生懸命介護に専念し、いい親であるよりも「いい夫婦」であることの大切さを感じてこめて話されたことでした。

文化講演会大成功の裏方は、橋会長をはじめとして諸役員、全会員が何ヶ月も前から広報、諸準備の活躍があつたことを書き逃がすことはできません。先生の送迎、食べ物やホテルの手配、懇親会、舞台設営、秋津書道とときなみ短歌の展示、司会進行、倫理活動、図書紹介、体験発表などの予行演習。と同時に、マイクの使い方やお辞儀の仕方など、藤崎先生による日本的な立ち振る舞いと作法のことなどいろいろと教えていただき、関係者全員が強い勉強にもなつたと思います。

さらに、毎日曜日の朝の集いに最近お見えになつていない方々、たとえば筒井完一郎氏、門園美枝子さん、川田薫氏など、お元氣な姿で参加されていたこと也有着なすばらしい大講演会でした。

(参加者一二七名)  
(大竹信雄記)



## 純粹倫理勉強会

三月六日(金)午後七時半よりオ  
フィスにおいて藤崎正剛教育企画部  
部長を迎えて勉強会が行われまし  
た。

まず最初に今年度の本部の流れ  
として、創立七十周年記念行事事業  
映画の製作「戦後編」の要望がある  
こと。

第二、植林地「ウランブハ」の  
地球倫理の森の鋤入れ式が終了、植  
林が始まること。

全国青年弁論大会が国際フォー  
ラムにて行われる予定。

日めぐりカレンダーに短歌を取  
り入れた大人用子供用のカレンダー  
を考慮中など、企画部長ならで  
はのお話があり、勉強会がスター  
トしました。

この度は純粹倫理入門の本を元  
に『実践の心得』の要件に入り、実  
践とは特別な気構えは必要でなく日  
常の当たり前のことを身をもって、  
心をこめて理屈なしに行い続けるこ  
とであり、その基本の十カ条は、  
一、即行(朝起きで我執を捨て  
る)  
二、純粹(無心にとりくむ)

三、直行(そのままただひたす  
らに)

四、くよくよしない(結果は天  
の領分)

五、緊張(気を抜いたり油断す  
ることなくことにあたる)

六、一気呵成(一気にやる)

七、貫徹(押し通す)

八、反復不退(繰り返し返すことで  
自信がつく)

九、不悲不喜(結果を素直に受  
け止める)

十、慎終(後始末をちゃんとす  
る)

先生は体験話を交えながら解りや  
すくお話くださり、これらが日々  
行動の実践の対象となり、物事を成  
就させ心境を高め向上に導く鍵であ  
りますと結ばれました。(出席  
者十名)

(氏家正子記)

### 朝の講話

三月八日(日)藤崎正剛部長に朝  
の講話を頂いた。

『万人幸福の葉』の第七条「疾病信  
号」で、病気は実は、困ったもの、  
人生の苦しみなどではなくて、有り  
難い自然の注意、天の与えた赤信号  
であるから、

喜んでうけて、間違いをなおす  
べきである。「病気のお見舞に、  
それは結構です」と言う時代  
がきた」とあるが、自分は六年前  
出張先で盲腸の手術をしたこと  
がある。その頃、九州・沖縄の方  
面長をしていて、第七条を知る  
者は、お見舞いにくて嬉しそう  
な顔をしておめでとうと言いつ  
れに對して自分も、「ありがと  
う」を返した。

親と子は目に見えない糸で  
繋がっている。病気になった時  
それは何を意味するのだろうか  
と考える。

以下は神戸の五十二歳の女性  
の体験談からです。

三男が耳鳴りを訴えるように  
なり、学校からそのことで電  
話を受けていたが、すぐ良くな  
るだろうと思っていた。病院に  
連れていくと耳鼻を調べるのに  
大きな病院を紹介された。倫理  
で生活相談を受けると「それは  
病気ではない。お姑さんに対し  
て不足心がないか」と指摘され  
「お姑さんの話を聞きたくない  
と思っっている心が子どもに耳鳴  
りを起こしている」と言われた。  
自分は姑を嫌っていない。ちよ

つと苦手なだけだと誤魔化していた。  
姑が時には三〜五時間しゃべり続け  
ても聞いてあげているつもりであつ  
たが、実は何度も同じことを言つた  
り、悪口も言う姑の話をやイヤヤ聞  
いていたのだと分かった。

結婚二十二年の時、主人の百の美  
点を色紙に書いて送った時の主人の  
嬉しそうな顔を見て、両親がいなけ  
れば主人はこの世には存在しないと  
感じ、主人を生んでくれてありがと  
うという感謝の気持ちで沸き上がつ  
た。そして姑の百の美点を主人の誕  
生日までに書こうと決めた。誕生日  
まで四日しかなかったが、その前日  
に百書けた。それを読んで改めて主  
人と姑には多くの共通点があること  
に気付いた。ケーキを食べた後姑に  
色紙を渡した。

姑は主人の百の美点を見た時、  
自分も三十でいいから書いてほしい  
と思っただけと言っていたそう喜ん  
でくれた。その日帰宅した息子がそ  
の日は耳鳴りが一度もしなかったと  
言った。  
それから耳鳴りを訴えることは  
無くなった。

現在は子育てセミナーを開き、子育て委員長という役をしている。自分も良かったけどどまらず、他の人にも広めていこうとしている。自分もお誘いしてるのだから皆から頼まれたことは進んでやっていくと、だんだんセミナーの参加者も増えてきた。これからも理屈なしに良いと思うことを実践し、身近な方々に真心をこめて伝えていきたい。

藤崎先生は急に司会の伊澤潤子さんに「ご主人の美点、いくつ書けますか」と尋ねられ、伊澤さんをあわてさせていました。親子相関、過去投影、現在投影を話され実践は理屈なしに行うことを強調されました。(出席二十六名)

(尾崎よしみ記)



### 子供短歌表彰

第十回しきなみ子供短歌コンクールにアメリカから応募した人たちの中から三人が入賞しました。数は6万1944名です。入賞の三人はしきなみ会員の摺木洋子さんの教え子たちで、摺木さんのしきなみに対する情熱が実を結びました。

講演会で表彰式を行い、藤崎正剛部長が出席の松浦裕君に表彰状を渡しました。二人は欠席でしたので摺木さんが代理で受け取りました。大きなスクリーンに三人の短歌が映し出され、司会の土佐美代子さんがゆかしく読み上げて格調高い表彰式となりました。



### 協同システムバレー学園

入選(四年生)

門永トロイ賢士

セコイヤで二千五百年の赤松を見たときぼくはこびとになった

入選(四年生)

フィシユマン葉月カーリーナ

日がしずむさんばしの上とび  
こんだ海も私もまっかになつた

佳作(四年生)

松浦裕

夏休みルイジアナで川下りワ  
ニがいっぱい泳いでいたよ

### 体験発表

講演会では三人の体験発表がありました。尾崎広之進君、伊澤潤子さん、前田グレースさんです。何日も練習を重ね、当日はとても感動的な発表でした。皆さん、お疲れ様でした。ありがとうございました。

### 横断幕

あの力強い字は滝川政和さんです。毎年感動で胸が震えます。

### 図書販売

おかげ様で二十六冊が売れ、売り上げは二百三十六ドルでした。ありがとうございました。

### 広報活動

橋会長、飯田事務局長、尾崎普及部長、そして会員諸氏、いろいろなメディアへ、講演会の広報活動をありがとうございました。

### 懇親会

和気藹々で楽しかったですね。飯田隆事務局長が参加者全員の景品を寄付して下さいました。

藤崎先生が、番号が読み上げられる度に景品を皆の席まで持って来てくださいました。和を作る実践を目の当たりに見て感動しました。グレース前田さんのお料理品目と値段の交渉力にも感謝です。本当においしかったです。



おめでとございませう

『しきなみ』三月号

群螢集 (西東京・海外)

入選 門園美枝子

つゆ光る朝採りしとう秋茄子を一かこ買いぬ青空  
市で

『秋津書道』二月号

競書

一席 滝川政和 芸術部 碧の部・漢字

五席 梅本豊造 高等部 (東京)

入選 堀井幸江 々々

入選 長谷川伝子 々々

入選 咲田静子 々々

一席 前田グレース一般部 (東京) 行書

入選 榊中恵美子 々々

入選 草野律子 々々

入選 小倉治望 一般部 (東京) 楷書

入選 高橋ひとみ 々々

調和体

入選 咲田静子 高等部

五帝以来傳  
又精妙

1席 滝川 政和

五帝以来傳

又精妙

天の部

滝川 歌子

前後兩

翼殿堂

南カリフォルニア前田グレース

1席 前田グレース

リズムに乗って伸やかに書かれた作品。

お知らせ

矢口裕司先生は六月のご出張で担当を終えられます。甲斐靖幸先生が後任として担当していただきます。

しきなみ短歌

突然の雨音窓辺に知らされて覗く驟雨の  
次第にはげし 滝川歌子  
春を待つ冬眠の枝を刈りこみて次の実り  
を心待ちする 奥本洋子  
満月は水平線ゆ昇りきて光の粒を波間に  
散らす 杉野和子  
アメリカの日系マートの恵方巻きとんか  
つやキムチと驚きの味 長谷川伝子

子供等をいまだ案じる姑の居ていつもおどけし  
亡母の現わる 塩出笑子  
オリオンは南天に座し何思う地上の争い静かに  
諫む 伊澤潤子

今年こそ会員拡大実現し呼ぶぞ理事長アメリカ  
の地へ 飯田隆

元旦におせち料理の謂れなど英語にまとめ孫に  
教える 梅本豊造

細き枝にたわむばかりに咲き乱る桜愛でつつ  
古里恋うも 梅本和子

濃霧の朝次つぎ集い来る友の安堵の笑顔おはよ  
うの声 門園美枝子

家事全般手抜きで学校へ行く我を笑顔で見送る  
夫に感謝 ホン史子

うつむける吾の目を射るは寒椿赤に一筋の光視  
るよな 松永典子

新年に心新たに決心す良いと思えばすぐさま行  
動 尾崎よしみ

もう二度と会えない友のおだやかな素顔の旅立  
ちあの世でも幸に 与那覇寛雄

濃き霧のピンセント橋をそろそろと尾灯たよりに  
無事わたりきる 森田のりえ

「折」とう何度も書くよ友の命を見詰める先に  
墨が飛び散る 草野律子

新年に手作りの本二百冊筆順調べ辞書めくる  
日々 摺木洋子

早朝のあまたの鳥のさえずりで自然と共に起き  
る幸せ 松元依子

健気にも病を明るく受け止める友を励まし生き  
たしと思ふ 矢口裕司